

入賞作品紹介

〈詫間キャンパス エッセイ〉

最優秀賞

当たり前が当たり前であること

1年3組 小比賀 仁

「コロナ」この三文字を見て多くの人が想像するのは社会に多くの影響を及ぼした新型コロナウイルスの名前だろう。この厄介なウイルスによって様々な変化が起こされた。

それは中学3年生の冬の終わりだった。ある日のニュースで興味深い情報が流れていた。その内容は中国で新型ウイルスが流行しているというものだった。その出来事は当時の私にとっては対岸の火事で全く気に止めていなかった。2月になり、状況は少しずつ、そして確実に変わってきていた。一人目の日本での感染者が出たのだ。しかし、まだその頃は発生場所が住んでいる場所から離れていたこともあり自分には関係の無いことだと思っていた。2月中旬私は入学試験に向けて塾でひたすら勉強をしていた。いつもと違うのは皆がマスクを付け、消毒に気を使うようにした事くらいだった。この頃は私たちが気をつけておけばそのうちこのウイルスは静かに終息してくれると思い、勉強に勤しんでいた。入学試験が終わり、不安と期待と解放感の混じった気分で日々を過ごしていた。私やその友達は当時、階段の踊り場でよく相撲をとっていた。やっていることは本物の相撲とは程遠かったが、この上なく楽しかったことを覚えている。私のいたクラスは皆仲が良くこれ以上ない最高に楽しいクラスだった。試験も終わったことだし、皆と思う存分遊べると思っていたその矢先だった。2月27日、全国の小中高校に臨時休校の要請が出された。私は非常に驚き、絶望した。私達が気づかないうちに新型コロナウイルスの魔の手はすぐそこまで迫っていたというのだ。政府のこの判断は間違っていないと思う。だが、要請が出された次の日の登校で最後になってしまうと思うと寂しい気持ちでいっぱいになった。

卒業式前最後の学校の日、今までの学校での楽しかった時間がそこで終わってしまうという実感のないまま私は登校した。いつもの少し開きにくいドアを開けると教室では女子たちが泣きながら別れを惜しんでいた。それまで私はすぐに泣く女子たちをそこまで悲しくもないのに泣かなくていいじゃないかと少し軽蔑していた。だが、その時だけは同情できた。担任の先生が教壇に立ち、休校の説明をした後、みんなに向けて別れの言葉を送ってくれた。ここで泣いてしまった人は多数いたが、私は泣かなかった。というより泣けなかった。私は中学になってから一度も泣く機会がなかったからか、悲しくても涙は出ずに終わっていた。先生の話も終わり、帰っていい

ことになった。しかし、ほとんど誰も帰ることは無かった。これでもうみんなと会えなくなると考えるといつものように早く帰りたいなどという気持ちは一切起きなかった。みんなと話していると休み時間によく相撲をしていた友達から「もうお前と相撲出来んのやな」と悲しそうに言われた。その瞬間、それまで実感出来なかった、もうみんなとの楽しい時間は過ごせないという事実が頭の中で確信に変わった。私はそれに気付いた瞬間過去の思い出が一気にフラッシュバックしてきて目から涙が溢れた。なにか喋ろうとしても全て涙声になってしまう。そう。私は中学校最後の日に中学で初めて「泣いた」のだ。そして最後に本当のラスト一回の相撲をした。涙が止まらなかった。気分が落ち着き、下校した。その間も涙が止まることは無かった私にとってクラスの皆がどれだけ大切だったのかそこで理解した。

学校が休校になり、しばらくたった。普段の休みならどこかに出掛けていたが、こんなご時世で外を出歩くのは休校の意味がないと思い自室でゲームをした。そのゲームは楽しかった。だが、どれだけゲームをしても満足感は無かった。あの当たり前の日常は休校によって特別だった日常が変わってしまったように感じられた。

当たり前は些細な出来事によって崩れてしまう。これからできる当たり前が当たり前であることに感謝し生きていこうと思う。

〈詫間キャンパス 小説〉

グランプリ

無私無欲

電子システム工学科3年 三井 優弥

「…今日も頑張るか。」そんなことを独りぼやいてみる。私はなぜ生きているのか、そんなことを考えながら、今日も見飽きた道を歩き続ける。俺とはある会社で働く、ただの一般人だ。今は朝の支度を終え、徒歩での出勤中だ。出勤中に見慣れた景色というのは、俺の気持ちを決まらせて憂鬱にさせる。朝早く起きて、この道をひたすら歩き、会社で仕事をし、また歩き続けて、夜遅くに家に帰って、倒れ込むように寝る。そんな毎日を、もうかれこれ十年以上は続けている。入社したてのころの、あのわくわくはもうない。今は、機械のように毎日生き続ける、そんなつまらない人生だ。

いつもの道をとぼとぼ歩き続ける。今の季節は夏だ。鼓膜をつんざくような蝉の鳴き声、風に揺られさざさわとこすれ鳴る木々、海よりも青く透き通る空、そして何より、夏の朝の暴力的な暑さ。これらはただでさえ憂鬱な出勤時間の俺の気持ちに、「会社に行きたくない。」と拍車をかけてくる。じりじりと焼かれる暑さに苦しみながら歩いていると、ふと、とある一軒家に目がとまった。なんてことない、ただの一軒家だ。だがそこじゃない。その家の屋根からかすかに聞こえた、「ブーン」とい

う鈍い羽音によって、自然に目が行ったのだ。目を凝らして見てみると、小さな蜂の巣ができていた。アシナガバチだろうか？結構大きくて怖い。だが幸い、彼らは巣作りに夢中なようでこちらには気づいていない。…彼らはそのうち、大きなコミュニティーを作り上げ、自分たちのリーダーのためにその生涯を尽くすのだろう。…俺とは違って。誰かに尽くすような目標も、そのために助け合う仲間というの、俺にはないものだ。俺は歩き始めながら、ふとかつての思い出にふけてみる。俺には幸せな家族も、気兼ねなく話せる友人も、仕事を託し合える仲間もいた。だが、いつしか彼らとの付き合いも希薄になり、いつの間にか決別していった。だから、俺は一人であることになれてしまっていた。というか、初めから一人で生きてきたのではないかと錯覚するまでになっていた。そして、コミュニティーを失い、一人になったことで、俺は今生きる理由も分からなくなっていた。会社に尽くすという目的？はある。だが、会社はいつだって辞めることができるし、何なら突然クビ宣言をされる可能性だってある。そうなったとき、俺はいよいよ生きる意味がわからなくなる。そのとき、俺はどうするのだろうか？無意味に生きようとあがくのか、それとも一人寂しく死のうとするのか。自分で自分が分からない。

「…最低な気分だ。」不意に独り言が漏れる。普段ならこんな暗い気分にはならないのだが、どうも今日は様子がおかしい。余計なことばかり考えてしまう。この暑さに頭がやられたのか、今まで考えてこなかったようなことが無意識に出て来ては、この気持ちをどんどんと降下させる。憂鬱だ。下をうつむく。頭がぼーっとする。会社に行かなくては。足だけが無意識に動く。いやになる。憂鬱だ。「もう…サボってもいいかな…。」「大丈夫ですか？」…？一瞬、自分とは違う人の声が聞こえた気がした。ゆっくりと振り向くと、誰かが語っている。誰だろう。だが、聞いたことがある声だ。しかし、その声の主を思い出せないまま、俺の意識はゆっくりと薄れていった。

はっ、と目が覚める。ガバッと起き上がって、あたりを見渡してみる。視覚情報から読み取るに、どうやら俺は、通勤途中にある公園のベンチで眠っていたようだ。公園内に俺以外の人はいない。今座っているベンチはこの時間だと日陰にあり、吹き抜ける風が涼しく感じられる。どうやら俺は熱中症か何かで倒れてしまったようであり、誰かにここへ運んでもらったようだ。…一体誰が？なんとかお礼が言いたいのだが、あたりを見渡してもやはり誰もいない。仕方ないが、いやでも会社に行かなくては。ベンチから立ち上がった瞬間、「あっ、もう大丈夫なんですか？」と、明るい男の声が聞こえた。声の聞こえた公園の入り口の方を見てみると、俺と同じようにスーツ姿をした男の人が俺の方に歩いてきていた。俺よりもかなり年下だろうか、顔に初々しさが見られるように感じた。「通勤してたら、具合が悪そうにしてたので、この時間に人が少ないこの公園に運んできたんですよ。大丈夫ですか？これ、冷たいお茶です。」「ああ、ありが

とう…。」なんだかいろいろ助けてもらって申し訳ない気持ちでいっぱいになる。「君は？」そう質問すると、彼は「あっ、申し遅れました。」と甲斐甲斐しく返事をし、丁寧に名刺を差し出ししながら、「私はこのようなものです。2年前に入社しまして、“先輩”には一度お世話になったことがあるんですよ！」と説明してくれた。その名刺に書いてある俺の通う会社名と、“先輩”という言葉にはとなる。そして彼の顔を見て俺は確信する。去年くらいに、俺と同じ部署の、俺とは正反対とも呼べる性格の元気な新人に、「仕事を教えてください。」とお願いされたことがあったのだが、思い出した、彼のことだ。ある程度仕事を教えたあたりで別の部署に異動したため、もう会うことはないと思い、忘れていたのだ。いや、忘れてなかったのかもしれない。彼を見ていると、かつて新しい環境にわくわくしていた頃の自分と重ねてしまう。そして、今の自分と比べて、落胆し、絶望してしまいそうだったのだ。だからこそ忘れることで、自分を守って無意味に生き続けようとしたのかもしれない。「あ、僕と先輩が仕事に遅れることはすでに会社の方に伝えてあります。だから、もう少し休んでいてもいいですよ。僕もついていますから。」「…ありがとう。じゃあ座って仕事のこととかでも話そうか。」「はい、喜んで！」なんて頼れる後輩なんだろうか。先ほどから有能な後輩に心も体も助けられ続けていて、先輩として顔が立たなくなっている気がする。そして俺たちはベンチに腰掛け、お互いの職場のことなんかを話し始めた。誰かとうやうや話すことなんていつぶりだろうか。夏の騒音にまみれながら、俺は彼と時間を忘れて話し込んだ。

「もうこんな時間か。」俺がふと公園の時計を見ると、時刻は10時過ぎとなっていた。俺は「もう大丈夫だ。迷惑をかけたね。そろそろ行こうか。」と彼に促し、ゆっくりと立ち上がる。彼は「はい！」と元気に返事をし、すっと立ち上がった。公園を出て、彼と世間話をしながら出勤する。会社近くまで来たとき、ふと、彼に聞きたくなくなったことがある。最初はやめよう、と思ったが、その答えを聞きたいという欲を抑えきれなかった。「君は、毎日が楽しいかい？」不意にでたその質問に、彼もきょとんとしている。まあ無理もないか、こんな質問をしたなら。「すまない、忘れてくれ。」俺がそう言おうとした瞬間、「楽しいです！」と、彼は目を輝かせ、五月蠅い蝉の鳴き声をかき消すくらいの声量で言った。その気迫に、俺はやや押されてしまう。「もちろんずっと楽しいって訳じゃないです。仕事で失敗したとか、そのせいで上司に怒られたとか、そんなふとした瞬間にはちょっとへこんじゃったりします。けどそのたびに、次は完璧にこなしてやる、見返してやる、っていう気持ちになって、次第にわくわくしてくるんです。」すごいポジティブ思考だ。単純なことかもしれないが、その考え方は今まで機械のように生きてきた俺には考えつかず、俺の心のなかで革命を起こすような考え方といえるようだった。そして彼は語り続ける。「それに、僕には目標があるんです。」「目標？」「はい！僕自身がヒーローみたいに、誰かを助けられる存在になること、それが僕の目標です。僕が頑

張ることで、家族の生活を助けて、会社の先輩や後輩の役に立てる、そんな理想の自分を目指しているんです。…現実では僕はまだまだ未熟者で、全然達成できていないんですけどね。」…素晴らしい目標だ。俺はその感想しか浮かばなかった。端から見れば彼の言っていることは現代社会では幼稚な考えとされ、酷評されてしまうものだろう。だが、彼にはその目標さえも成し遂げてしまいたいような、そんな執念がある。きっと彼のような目標を持ち、達成させようと努力する人こそ、将来良いコミュニティーを作り上げて、恵まれた人生を歩んでいくのだろう。そう考えると、俺は誰のためとも考えず、ただ会社からの見返りのため、自分のためだけに働き続けて、自分から周りと決別していった、彼とは逆のことをして今まで生きていたのだろう。彼の生き様と比べて、自分がひどく情けなく感じられる。俺は「そうか…」とため息混じりにいうと、彼に向かって、「君は強いんだな。」と沈んだ気分の今に出せる、精一杯の笑顔で言った。そんな俺に彼は、曇りない笑顔を返してくれた。俺では直視できないくらいの、まぶしい笑顔だった。そうこうしているうちに会社の手前に着いた。せっかく彼が素晴らしい目標を話してくれたのに、こんな自分と比べてしまったことで、俺は再び憂鬱になっていた。「着きましたね。」彼の言葉に対して俺は「…うん…」と気の抜けた返事しかできなかった。彼は「では僕はここで失礼しま

す。お互い頑張りましょう！」と言うと、さっさと会社内に行ってしまった。俺も会社内に入ろうとすると、なぜか彼が走って俺のところに戻ってきた。忘れ物でもしたのかと思っていると、彼は私と目を合わせながら、「先輩と会ったらどうしても伝えたいことがあったのを思い出したんです。僕がああ目標を立てたのは、先輩のおかげなんです。入社したてで何も分からなかった頃の僕を助けてくれた先輩を見て、僕もこんな人になりたい、頼れる人になりたい、って思ったんです。先輩は会社内でもかなり評判がいいんですよ？だから先輩、これからも頼りにしています。では、お大事に！」と言い、深々とお辞儀をして、またさっさと行ってしまった。俺は会社の前でただ一人呆然と立ち尽くしていた。誰かに頼られる、というのはこんなにも気持ちいいものだったのだろうか。何もかもを捨ててきた俺にとって、彼の言葉は俺の冷めきった心にぬくもりを与えてくれた。こんな自分でも、今からでも、誰かの助けになれる。そう考えると不思議と熱意がわいてきた。俺が歩き出すと、不意に、目の前を黄色い物体が通り過ぎる。俺は立ち止まって、物体の飛んでいった方向を見ると、一匹のハチが、せっせと花の蜜を集めているようだった。俺はそのハチを見て、フッと笑うと、「今日も頑張るか。」とつぶやき、会社への歩みを進めた。

.....

〈詫間キャンパス 短歌〉

最優秀賞 胡瓜馬 動く微睡む夜 迎え火焚き 迎えたき人 ここに来たり
情報工学科 3年 井澤 早紀

優秀賞 アイモード いい夢だった 泡沫の いまは久しき モバイルネット
通信ネットワーク工学科 2年 佐野 圭亮

優秀賞 親の手と 受験票手に 見上げれば 夢の気分の 今日の現実
1年1組 宮武 志成

〈詫間キャンパス 俳句〉

最優秀賞 鯉なしで 回る矢車 悲しい音
1年1組 藤村 円香

優秀賞 輝跡呼べ 空に願かけ 流星群
通信ネットワーク工学科 2年 関子 結楽

優秀賞 灯りに蛾 夢の都会に 若い人
1年1組 岡田 哉汰

〈詫間キャンパス 写真〉

最優秀賞 初日の出

電子システム工学科 3年 陶國 多聞



教員・学生による推薦図書

※推薦図書は図書館で貸出できます。

教員〈高松〉



定理が生まれる：天才数学者の思索と生活

セドリック・ヴィラーニ (著) 池田 思朗、松永 りえ (訳) (早川書房)

数学者の日常を日記と共同研究者とのメールを使って垣間見られる興味深い本を紹介します。著者のセドリック・ヴィラーニは数学のノーベル賞と呼ばれるフィールズ賞を受賞したフランス人数学者です。

専門用語、数式の嵐なので何が書いてあるか全くわからないページが連続すると思います。大丈夫です。とばしましょう。共同研究者との会話、筆者が数式に感じるお気持ちや数学者評、物語の流れが真に面白い部分です。例えば、共同研究者が「100ページ以上証明を書いているけど解が見えない！」(意訳)と訴えてくる場面 (p.118) が描かれたりします(現場感がすごい)。新しい数学を作る現場に興味があればお勧めです。

一般教育科教員 野田 数人

ホット・ゾーン

リチャード・プレストン (著) 高見 浩 (訳) (早川書房)

「2020年の出来事を1つ挙げるとしたら？」という質問に対し、多くの方が新型コロナウイルス関連の事柄を挙げるのではないのでしょうか。それほどに、本当に大変な1年でした。

さて、私の推薦図書は1980年代に発生したエボラウイルスの感染拡大と制圧作戦に関する本です。恐ろしいのは、これがノンフィクションだということです。我々の日常生活はほとんど簡単に壊れるということ、また、それを防ごうと必死に尽力している方々がいるということに、思いをさせてみてはいかがでしょうか。

機械工学科教員 木村 祐人

生き方

稲盛 和夫 (著) (サンマーク出版)

「私の成功に理由を求めるとすれば、私には才能は不足していたかもしれないが、人間として正しいことを追求するという、単純な、しかし強い指針があったということです。」

上記のように、著者は述べられており、人間として一番大切なこと、ここでは、人間として正しい生き方を志し、ひたすら書きつづけるという生きる姿勢を、具体的に、また、詳しく学ぶには、恰好の書籍であり、まだ読んでいない方には是非とも推薦します。

電気情報工学科教員 雫元 洋一

モノづくり解体新書 SELECT

日刊工業新聞社 (編) (日刊工業新聞社)

現代社会は工業製品をはじめ、食品、衣料品、日用品等、様々なもので溢れています。学生の皆さんも筆記用具やノートといった学用品、スマートフォンやタブレット等のハイテク機器のお世話になっていると思います。しかし、日常的に使っている、或いは身近にあるが故に、成り立ちや作り方について疑問や関心を持つ方は少ないのではないのでしょうか。

この本は、その様な身近な「モノ」達の成り立ちや作り方を分かりやすく解説しており、特に興味を引くテーマが厳選してまとめられています。本のタイトルに「解体新書」とあるように、モノづくりを工程別に分解し分かりやすいイラストを交えながら、モノづくりの多様さや難しさのみならず、モノづくりを支える方々の努力や技術力の素晴らしさを再認識する内容となっています。本書には白熱電球 (昨今はLEDが台頭していますが) の作り方からコンクリートの作り方まで幅広い内容が取り扱われていますので、一読されてはいかがでしょうか。

なお、本書に掲載されているモノの作り方は、技術革新などにより製造方法が変わっていることがあります。インターネット等で現在の製造方法を調べてみると、変遷がよく理解できることでしょう。

機械電子工学科教員 川上 裕介

感染症の日本史

▶ 磯田 道史 (著) (文春新書)

新型コロナウイルス感染症は、間違いなく後の歴史の教科書に記される、災害だと思えます。個人レベルでできる感染症対策としては、3密回避や手指消毒、マスク着用が重要とされています。本書を読めば、それらの個人レベルの対策を含め、現在必要とされている対策の多くが、百年前のスペイン風邪(スペインインフルエンザ)の際にも、それ以前の感染症流行の際にも、検討されていたことがわかります。新型コロナウイルス感染症に関する災害は、まだ出口の見えない状況にあります。かつて同じような困難に遭遇した方達の歴史を知ることが、今、私達が正しい選択をしていくために、とても大切だと思えます。

建設環境工学科教員 高橋 直己

教員〈読間〉

東大の先生!文系の私に超わかりやすく数学を教えてください!

▶ 西成 活裕 (著) (かんき出版)

高専に入って急に数学が理解できなくなったと困っている学生も多々います。その理由は、中学生の時は入試対策の為に問題を機械的に解くだけで、その根底にある数学の知識を理解してこなかったのだと思います。実は数学嫌いで英語の道に進んだ私もそうでした。そんな「私達」にこの本は中学数学でとりこぼした知識を易しく説明してくれます。

一般教育科教員 森 和憲

コンピュータ・システム プログラマの視点から

▶ Randal Bryant, David O'Hallaron (著)
五島 正裕、河野 健二、南出 靖彦 (監訳) (丸善出版)

アメリカのカーネギーメロン大学の教員が執筆し、多数の大学で採用されているコンピュータ・システムの教科書です。この本では、x86-64アーキテクチャ上のLinuxでCプログラムがどのように動くのかを理解するために必要なハードウェア・アーキテクチャ、OS、コンパイラ、ネットワークの基礎知識を実践的に学ぶことができます。C言語を学んだ後に、それらを専門的に学ぶ前段階に読むの適しています。

通信ネットワーク工学科教員 糸川 一也

Pythonではじめるアルゴリズム入門

▶ 増井 敏克 (著) (翔泳社)

IoT電子工作を自作している方にお勧めです。色んな本がありますが、初心者だけでなくよく知られているアルゴリズムを理解しながら作ることができ、プログラミングの基礎を学ぶことができるので、マイコンで他の言語に触れている方も短時間で理解できるとおもいます。プログラミング学習の筋トレに役立つのではないのでしょうか。

電子システム工学科教員 森宗 太郎

幸せになれる1分セラピー

▶ 奥田 弘美 (著) (中経出版)

毎日の生活の中には必ず困ったこと、迷うことがあります。それはどんな立場の人、どんな年齢の人でも日々何から思ってしまう不安な気持ちです。ただ、それらの悩みは見方を変えることで、深刻な悩みにならなくなり、気にならない悩みになることが多々あります。この本はそんな考え方を教えてくれる気持ちのあったかくなる本です。

情報工学科教員 鱈目 正志

学生〈高松〉

よるのぼけもの

▶ 住野 よる (著) (双葉社)

「夜になると、僕は化け物になる。」1頁目に記されているこの一文の化け物は漢字を用いているが、あえて題名をひらがなにすることで不気味さがでていると私は思う。深夜の学校と昼間の学校が時間を追って書かれていることで、身近に感じられる。クラスメイトの矢野さつきと化け物の安達の関係、安達の視点から描かれるクラスの実態、安達の心の移り変わりを描いている素晴らしい作品であると思う。是非一度、と言わず二度三度読んでほしい。

1年2組 (ME) 井上 広澄

ジョーカー・ゲーム

▶ 柳 広司 (著) (角川書店)

実写映画化、アニメ化、舞台化、コミカライズされた「死ぬな・殺すな・囚われるな。全てを欺き、生き残れ。」を旨とするD機関に所属するスパイたちの仕事や生活を描いた作品。

作員の裏切りやD機関の設立者、結城中佐の巧みなスパイのテクニックに驚かされます。冷徹でスマートな話かと思えば、ほんわかするシーンや涙を誘われる話もあり、この騙し合いの様々な要素に夢中になれます。ストーリーを読みながらネタあかしよりも先に、考察を深めたり、ネタあかしに理解を深め、純粋に驚いたりしながら読み進めるとより楽しめます。

1年3組 (MS) 山地 沙依

瀬戸大橋架橋記念博覧会四国公式記録

▶ 四国新聞社 (編集・制作) (財団法人 香川県瀬戸大橋架橋記念博覧会協会)

皆さんは、瀬戸大橋記念公園が何故できたか知っていますか?元々瀬戸大橋が開通した時に行われた博覧会を行うため、あそこは跡地なんです。この本には、博覧会の館の説明やここに来た芸能人の写真が載せられており、その写真の一部一部からとても良く80年代を感じられ胸にジーンときます。特に昔の自販機、NECの昔ロゴが良いです。

ネットで調べてもここまでの情報、写真はできません。さあ皆さん80年代を感じに行きましょう。

1年4組 (ME) 福岡 忠之

教授と少女と錬金術師

▶ 金城 考祐 (著) (集英社)

まず、「教授と少女と錬金術師」という小説は化学等の知識を文章に表した面白い本です。この本には、あらすじや挿絵が無く、表紙には文字しかなく、最初に見たときはあまり見たくないと思います。実際に私も最初は何の本かわからなく、読んでみたいという気分にはなりませんでしたが、しかし、読んでみると、最初はわからなかった題名の「教授と少女と錬金術師」という意味がだんだんと分かり、それと同時に「へーそうなんだ」と思うような初めて知ることもあり、本当に読んでいて楽しい文章でした。文字が大きく、ページ数が少ないため、あまり本を読まない人でも気軽に読めます。

機械電子工学科2年 佐藤 佑海

計算の基本から学ぶ土木構造力学

▶ 上田 耕作 (著) (オーム社)

この本はぜひ1、2年生に読んで欲しい一冊である。特に構造力学でどのようなことを学ぶのかを知りたい1年生や、構造力学の授業の復習や演習として2年生に勧めたい本である。

この本の流れとして、用語の解説、例題、演習問題の繰り返しである。用語の解説では教科書よりも優しく解説をしている。例題ではしっかりと、公式、途中式を丁寧に書いている。演習問題では多種多様な問題があり、さらに全て解答付きである。構造力学を学ぶにはこの一冊が一番お勧めである。

建設環境工学科2年 土田 虎ノ助

ドラゴンクエストXを支える技術 大規模オンラインRPGの舞台裏

▶ 青山 公士 (著) (技術評論社)

大人気RPGドラゴンクエスト。そのシリーズの中でも珍しいオンラインRPGという形で提供された「X」。今までとは違う形での開発となった裏側には、プログラマーやデザイナーなどの技術者の方々の苦労とアイデアが詰まっています。新たな試みに挑戦する技術者の方々のお話。ゲームが好き、プログラミングが好き、そんな方ならきっとその世界に魅了されることでしょう。図書館へいらした際には、是非一読ください。

電気情報工学科3年 森田 晃祐

なぜ僕らは働くのか

▶ 池上 彰 (著) (学研プラス)

現在、世界は著しい勢いで変化している。それに伴い、働き方や生き方も変化している。私は、今後の働き方の可能性に興味があったため、この本を読んだ。この本は、小学生でも分かるよう、イラストを用いて簡潔に、学校では詳しく教えてくれないような内容が書かれている。何のために勉強するのか、何のために働くのか、また働き方と密接な関係を持つ幸福についても描かれている。皆さん、将来の可能性を、周りの環境や現在の自分の状況のせいで狭くしていませんか。この本を手にとって、将来の可能性を広げましょう。

電気情報工学科4年 蓮池 郁也

流浪の月

▶ 凧良 ゆう (著) (東京創元社)

本屋大賞を受賞した本です。主人公は女性。幼い頃に父親が病死し、母親は蒸発。さらに小児性愛者に誘拐された経験のある主人公は常に社会から憐憫の目で見られます。しかし、それはあくまでも第三者の想像の中での同情です。主人公の苦しみは主人公にしか分からず、主人公の認識と、社会の常識とのギャップに主人公は苦しみます。多様性が叫ばれる現代で、本当に見なければならぬものは何か、本当に大切なものは何かを考えさせられる作品です。ぜひ何度も読んでみてください。

機械電子工学科4年 大星 仁

漫画 バビロン大富豪の教え「お金」と「幸せ」を生み出す五つの黄金法則

▶ ジョージ・S・クレイソン (著) 坂野旭、大橋弘祐 (漫画・企画) (文響社)

生きていく上で「お金」のことは必ずついて回ります。お金に関してしっかりと学んだという人はきっと少ないと思います。そんなお金への基本的な原則や向き合い方について、漫画でわかりやすく解説されています。投資や資産運用の難しいノウハウではなく、精神的に豊かになるための価値観・考え方がこの本では描かれています。お金が全てではありませんが、ほとんどのことにお金は必要です。お金に囚われない生き方をするために、一度この本を手にとってみてはどうでしょうか？

創造工学専攻1年 山地 夢十

学生〈読間〉

137億年の物語：宇宙が始まってから今日までの全歴史

▶ クリストファー・ロイド (著) 野中 香方子 (訳) (文藝春秋)

私がこの本と出会ったのは、私に物心がついたばかりの小学4、5年生の頃だった。当時の私は、これを題材にしていたテレビ番組にも、「深く知りたい」という探求心もあってか購入した。

この本の良さは、二つある。
一つ目は、章の初めに大まかな内容が記載されており、どんなに忙しくてもここを読めば大体は理解できるという点。
二つ目は、歴史を地域規模、科学・文化分野で見れるという点。
例えば、第三部では文明の始まりがテーマだが、エジプト文明だけではなく、メソポタミア文明も紹介されている。長い文章だけではなく、一部例え話や、ところどころに絵や写真等の資料もあるのでぜひ手に取ったら一度読んでみてほしい。

情報工学科2年 藤井 快

メモの魔力

▶ 前田 裕二 (著) (幻冬舎)

私がお薦めする本は「メモの魔力」という本です。普段メモを取らないので、この本のタイトルを見たときに、気になって読んでみました。著者の前田裕二さんはメモのおかげでShowroomというアーティストやアイドル、タレント、一般人等の配信が無料で視聴でき、誰でもすぐに生配信が可能なアプリのアイデアを生み出したそうです。

メモには、予定などを記録するような外付けハードディスクの役割と、アイデアを生み出す役割があり、その方法をこの本は教えてくれます。新しいアイデアを生み出したい方は読んでみてください。

電子システム工学科3年 松下 剛芽

何者

▶ 朝井 リョウ (著) (新潮社)

この本は、今年就活生の主人公である拓人の視点で語られる物語です。ある日、拓人は同じ就活生でルームメイトの光太郎、光太郎の彼女の瑞月、瑞月の友達の理香、理香の彼氏の隆良と、就活対策として集まることとなります。これを機に、拓人の人間関係や考え方が徐々に暴露されていきます。

この本の魅力は現実世界にもある、SNSがもたらす身近なのに微妙な人間関係や、人の行動に対する他人からの見方を拓人が分析することです。そして、この分析がとても鋭く射いて、何よりも読者である私たちが非常に共感できるものになっています。

特に、拓人のように周りをよく見るという人は、とても感情移入しやすいと思います。正直、この本は説明するのがとても難しい内容の本です。しかし、文章の書き方自体はライトノベルに近い部分もあり、とても読みやすいです。

もし、何の本を借りるか悩んでいるなら、読みやすく深いこの一冊はとてもオススメです。

情報工学科2年 香野 伊吹

ゲームプログラマのためのコーディング技術

▶ 大圖 衛玄 (著) (技術評論社)

この本は、タイトルの通り、ゲームプログラムを書く方向けにきれいな/効率的な/保守性に優れたコードの書き方を解説した本です。ステート遷移、リアルタイム性のあるプログラムでのオブジェクト指向的設計方法、効率的なオブジェクトイテレーションの方法、計算式を見やすいコードとして記述する方法など、非常に実用的な内容が解説されており、プログラミングを勉強したが実際にどのように書けば大規模な作品が作れるかわからない、自分で書いたコードが非常に見づらい/保守性が低いといった方に強くお勧めできます。この本ではゲーム開発に採用されることが多いC++言語を用いて解説を行っていますが、実際のコードを用いた設計解説が多くなされており、設計の自由度が比較的高いC++言語の解説として、とても理解しやすい内容となっています。コード設計について述べている本の中でも、ここまでゲームプログラミングで活用できるデザインパターンについて簡単かつ詳細に述べているものは少ないでしょう。また、これだけの内容を掲載しながら、255ページと読みやすい書籍であることも魅力の1つです。C++でゲームを作りたいという方は是非手に取ってみてください。

情報工学科4組 真鍋 悠一郎

一行怪談

▶ 吉田 悠軌 (著) (PHP 研究所)

本作品は、1ページに1つ、一文の物語で構成される怪談小説集です。そもそもタイトルになっている「一行怪談」とは、この本に書かれている文章のフォーマットであり、具体的には「題名は入らない」「文章に句点は一つ」「詩ではなく物語である」「物語の中でも怪談に近い」といった条件を踏まえた一続きの文章になっています。

本作品の特徴として、多くの物語が生活の延長線上にあり、いつか自分も体験してしまうのではという不気味さを持っているという点が挙げられます。題材が身近なぶん、読んでいて想像力が喚起されてじわじわと怖さがこみ上げてきます。

さて、ここまで特徴を紹介しましたが、やはり例があったほうがさらに分かりやすいと思うので、特に印象に残った文章をご紹介します。それは「ある朝を境にずっと、教室の隅のカーテンが人の形に膨らんでいて、もう一ヶ月、誰も開けられないでいる。」という一文です。教室のカーテンが膨らんでいるのを見たことがある人は多いはず。もしそれが人の形をしていたら？と想像するとぞっとするでしょう。

本作品にはこのような文章が200近く収録されています。一つ一つの文章は短くてきているため空き時間に少しずつ読むもよし、一気に読んで恐怖にたっぷり浸るもよし。不気味なものの好きの人におすすめの一冊です。

情報工学科5組 若山 稜太

教員によるエッセイ

書き方を意識して読む

電子システム工学科 大西 章也

学年が上がるにつれて論文などを執筆する機会が増えると思います。特に学会での発表や学術論文の発表は研究業績となります。この業績は進路だけでなく、進学先での奨学金や渡航助成金の採択などに大きく影響します。しかしながら、これまで実験レポートをたくさん書いてきたにもかかわらず、いざ論文を書こうと思っても上手く日本語で表現できない人が多いのではないかと思います。そこで、論文執筆能力を向上させるには良い文章、書き方に意識を向けて読むのが良いと思います。

良い文章には筋の通ったストーリーがあります。各段落、各文は単なる知識の羅列ではなく、互いに明確な関係があります。このような筋の通ったストーリーにより読者の興味を引き、実験、考察、結論へと導いていきます。一方で良くない文章では、実験の目的から逸脱した実験を行い、実験結果を踏まえない考察をし、目的を見失った結論を導き出すことすらもあります。また、専門

知識の習得や資格試験合格のみに重点を置いた専門書や問題集は知識の羅列となりがちであるため、それらの本からは筋の通ったストーリーのある文章の書き方を習得するのは難しいと思います。まずは知識の羅列になっていない専門書や論文と出会い、それがどのように書かれているのかを学ぶ必要があります。

良い文章はストーリーがあるだけでなく、誤りの少ない日本語で書かれています。実験レポートは一度書いて、誤字脱字があろうと何も確認せずに提出していたかもしれません。しかし、論文や書籍は後々まで残りますので何度も文章を校正します。その過程で誤字脱字や、誤解を招く表現などを、時間をかけて訂正します。卒業論文を書く頃には指導教員や先輩から修正箇所をたくさん指摘されると思いますが、そのように時間をかけて丁寧に文章を校正します。そうした校正の末に仕上がった文章は誤りの少ない日本語となっており、科学技術のやり取りに用いても誤解が少ないものとなっていると考えられます。そのため、よく校正された文章で用いられる日本語表現を学び、自在に活用できるようにするのがよいと思います。

最後に、卒業までにレポートや論文など様々な文章を書くにあたり、なるべく早いうちに良い文章に出会い、そこから書き方を学ぶとよいと思います。そのためにも図書館や、学校が購読している科学技術雑誌などを積極的に活用していきましょう。

図書委員より



図書館利用のすすめ

高松キャンパス 図書委員長
機械工学科4年 前田 和樹

昨今のコロナ禍という状況の中、ただ課題とレポートに追われる日々を過ごすのではなく、一日の中にほんの少しだけ本を読むという習慣を取り入れませんか。毎日読もうと思わないような難しい本よりも、毎日少しずつでも読み進められる自分の好きな本を読んでみてください。活字を読むことは、漢字の読みや正しい文章表記の勉強になるだけでなく、文章読解能力も身に付けることができるだけでなく、本校の教育目標の一つであるコミュニケーション能力の基礎となる語彙力の成長や、知識の蓄積にもつながると、私は思います。

しかし、中には「どんな本が読みやすいのかわからな

い」という人もいますかと思えます。そんな時は本校の図書館に「こんな本が読みたいけど、どんな本があるのかわからない。」と聞いてみてください。きっと自分の好みにあった本が見つかると思います。また、「こういう本が読みたいけど高専の図書館に置いてない」ということもあるかと思えます。そんなときは「ブックハンティング」に参加してみてください。各クラスの予算制限はありますが、本屋の店頭で自分の納得のいく本を自分の目で見て選ぶことができます。また、「次のブックハンティングまで待たずに読みたい」と思った本は、図書館に設置している「リクエストBOX」を活用してみてください。本校の図書館は学生の皆さんの「こんな本が読みたい」という知の欲求を全面的に後押ししてくれます。

コロナ禍という時代となり、ほとんどの物事がオンラインへと移行しようとし、日々の生活が便利ではあるものの退屈になってきた今、本を読んで便利かつ満足した生活を送りませんか。

図書館利用のすすめ

詫間キャンパス 図書委員
電子システム工学科5年 柏原 悠人

高専の図書館には他の図書館にはない書籍が多くあり、在学中に多く利用することを私は強く勧めます。

理由の一つとして、まず実験などで参考となる情報を得ることができます。最近スマホなどを使用して調べることが多くなり、専門書を開く機会が減りました。しかし、専門書にはネットにある情報より確実です。また、情報がまとまっている専門書に比べ、ネットでは必要な情報が分散しており、調べるのに時間がかかります。このようなことから、図書館を利用して実験、レポートを効率よくこなすことができます。

一つ目の理由と類似して、図書館の専門書は研究の参

考にもなります。学校の授業で学んだ理論を使用する実験とは違い、自分の知らない分野を研究するには基礎が重要です。そのためには専門書は必須です。また、研究が進んできても新しいアイデアを発想するために違う分野の専門書を読み刺激することができます。

研究や実験以外にも進学、就職を助けてくれる本も多くあります。特に資格試験の対策の書籍が多いことは、高専の図書館最大の特徴です。私個人が驚いたこととして、自衛隊の対策問題集があったことです。これらの書籍の中で人気の無線技術士は、同じものが複数冊あり試験に近い時期でも貸し出しができます。

また、SPI試験という就活で受ける試験の対策本や面接のアドバイス本があり、就職対策も万全です。

これまで紹介したこと以外にもたくさんの方に高専の図書館を利用して、高専生活をより充実したものにしましょう。

専攻科生より

本とネットの共存

創造工学専攻2年
村川 和也

最初に、ここでは私が本に興味を持ったきっかけ、魅力について言いたいと思います。私は、専攻科に進学して大きく変わったことは人間関係だと思っています。本科5年生の時の同級生は就職し、中学の同級生も就職や結婚している人もいます。その友人達と話す自分の知識量の無さや語彙力の低下を痛感しました。そして、これから社会人になるまでの2年間で人と会話するうえで重要なコミュニケーション力、知識力を養いたいと考えようになりました。図書館でアルバイトをしていたので、そこで本を読んでもみようと思いました。最初は、物語や歴史、専門的な本を見るよりはノンフィクションや自己啓発の本を見るが多くなりました。本を読んで、考え方や、モチベーションも上がり、結果的に友人との会話や企業との面談などにも少しは役に立ったと感じました。

このように、本の利用の仕方は人それぞれだと思います。物語を読むのが苦手でも、趣味などの自分の好きなことの本を読むのもよいと思います。しかし、今ではネットが普及して本を利用することは少なくなったと思います。私も研究や授業でわからなかった所をよくネットで検索をかけて調べますが、わかりやすいのは参考書・専門書であると思いました。なぜなら、ネットではその答えの情報しか載っていません。しかし、本には解説やそれに関する情報が丁寧に書かれているからです。

ここまで言っておきながら、私自身の意見では、本もネットも状況に応じて扱うのが一番だと思います。簡単に知りたければインターネットを利用し、詳しく知りたければ本を読むくらいの感覚でよいと思います。重要なものは、調べる媒体の選択肢に本があるかだと思います。

現在、世界中で新型コロナウイルスが流行しています。学校ではオンライン授業、会社ではテレワークといった、人同士が接触しないように感染症予防がされています。だから家で過ごす時間というのが長くなっているかもしれません。そうした中、家でいる暇な時間とかに一度本を手にとってみるのも良いかも知れません。

本に触れる

電子情報通信工学専攻1年
間部 帆乃夏

図書館には、国内や海外の文学や漢字・英語検定、TOEICといった資格に関する問題集、更には就職におけるSPIや小論文の書き方などの書籍が豊富に揃えられています。

私が本科生の頃は、多読用の英語の本や検定の問題集、自身の好きな作家の小説や初めて聞く海外の作品を借りて読んでいました。また、学年が上がるにつれ授業内容も難しくなり、教科書だけでは分かりづらい部分もありました。その時はすぐ図書館へ行き、自分が納得するま

で本を読みこんでいました。

高学年の方々は研究や進学・就職において、どの文献あるいは参考書・問題集を参考にすれば良いか分からない事もあると思います。そういった時こそ図書館に行くことをお勧めします。私自身、本科4・5年生から研究が始まったことがきっかけとなり、必要な知識を身につける為、研究に関連するような本を借りようになりました。本に触れた分だけ知識が身に付いていくのが実感でき、その知識が知恵となり奥深いところまで自分の研究を追究できることに、私は面白さを感じています。

本を読むことは、勉学の助けとなる他、自身の見聞を広げることに繋がると思います。図書館には、様々な参考書や専門書をはじめ、文学的な書籍も多数置いてあります。ぜひ図書館を利用して本に触れ、読んで貰いたいです。

本を読む理由

電子情報通信工学専攻2年
横山 功典

みなさんは親や先生から「本を読みなさい」と言われたことはありますか？おそらく1度は言われたことがあるのではないのでしょうか。

私は幼い頃から本を読むことが苦手によくその言葉を聞かされてきました。子供心に「なんで本を読まないといけないんだろう」と思っていました。本を読む頻度が少ないので、夏休みの宿題の読書感想文を書くことも大変苦労しました。

ある夏の日、図書館で何の本を読書感想文に書こうか迷っていると「原子力宇宙船地球号」というタイトルが目に入りました。その本は戸梶圭太さんの作品で、2012年9月に初版が発行され、2011年の原発事故が暗に風刺された作品でした。

当時SFアニメを見るのが好きだったので、なんと

面白そうだなと思い、軽い気持ちで読み始めました。今まで本を読むことが苦手でしたが、その本を読み進めていくとその世界観に引き込まれ、スラスラと一気に読み終えることができました。読み終えて、言葉で言い表せない悲哀を感じたのを今でも覚えています。不思議なもので、読書嫌いだった私が、何年も前に読んだ本の内容を覚えているのです。

本を読む理由は人それぞれだと思います。

私のように、何かの課題のために本を読んだり、そもそも本を読むことが好きな人もいます。本を読むことが苦手な人は、まず自分の興味がある内容の本を読んでみてはいかがでしょうか。その本が雑誌やコミックでも、今までになかった知見を得ることができるかもしれません。新しい物の考え方は、きっと私たちの人生のどこかで役に立つはずですよ。

最後に、今年はコロナウイルスの影響で、なかなか外出できない日々が続きました。今まで本を読む機会がなかった人も、この機会に図書館で本を借りて自宅でゆっくり読書を楽しんでみてはいかがでしょうか。皆さんの人生の糧となる本に巡り合えることを願っています。

ブックハンティング紹介

●高松キャンパス

高松キャンパス図書館では、11月12日（木）にブックハンティングを宮脇書店総本店（朝日新町）で実施しました。

今回は、留学生を含む30名の学生が参加し、クラス毎のグループに分かれて、専門技術、プログラミング、語学、ビジネス、世界情勢、文学、資格取得、生き方、歴史、旅行など多岐にわたる分野の本を熱心に選びました。

選ばれた100冊の本は、図書館のブックハンティングコーナーに展示しています。今回参加できなかった皆さんも読みたい本やCDがあれば、図書館カウンターまでリクエストをお願いします。

本に興味のある方は、図書館へ気軽にお越しください。新しい発見があるかもしれません。

- ※こんな本が選ばれました。
- ・四国の鉄道（1960～90年代の思い出アルバム）
 - ・必携「からくり設計」メカニズム定石集part2
 - ・観察を楽しむ 特徴がわかる 岩石図鑑
 - ・コロナ危機を生き抜くための心のワクチン
 - ・今、行きたい! 世界の絶景大事典1000
 - ・図解ゼロからわかる材料力学
 - ・扇物語
 - ・大学4年間の統計学が10時間でざっと学べる



●詫間キャンパス

詫間キャンパス図書館では11月15日（日）に、宮脇書店本店（高松市丸亀町）においてブックハンティングを実施しました。感染症対策のため、移動に使用するスクールバスの乗車人数が制限され、募集人数を少なくしましたが1年生から5年生まで合わせて18名が参加してくれました。

店内を回り、授業・研究用の専門書、資格取得のための問題集、話題の小説や図書館が持っている図書の続編等々思い思いに選び出した結果、全部で約60冊集まりました。

既に購入済みだった図書を除いた50数冊の図書は新着図書コーナーに展示していますので、図書館に来て、ぜひ手にとって見て下さい。

それぞれの表紙には、その図書について紹介したポップがつけられていますので、選ぶときの参考にしてください。

また、図書館に足を運んだことがない方は、この機会にどうぞのぞきにきてください。

- ※こんな本が選ばれました。
- ・四畳半タイムマシンブルース
 - ・よけいなひと言を好かれるセリフに変える言いかえ図鑑
 - ・ドラえもんを本気でつくる
 - ・DirectX12の魔導書
 - ・実践bashによるサイバーセキュリティ対策
 - ・きちんと知りたい! バイクメカニズムの基礎知識
 - ・超訳ダ・ヴィンチ・ノート
 - ・Another 2001



図書館からのお知らせ

蔵書検索はこちら



読み取れない場合は、
https://libopac3-c.nagaokaut.ac.jp/opac/opac_search/?kscode=041
 にアクセスするか、
 高専ホームページ→メニュー「施設案内」→「図書館」→「蔵書検索」
 をクリックしてください。

図書館閲覧室の開館時間

平日 8:30～20:00
 （長期休業中は17:00まで）
 土曜日 10:00～16:30
 （長期休業中以外）

※詳細は図書館（開館）カレンダーをご確認ください。

※自然災害等により臨時閉館する場合があります。

一般利用者（保護者）の皆様へ

本校の図書館は、一般の方へ開放しており、貸出（予約）も可能です。理工系図書が中心ですが、香川県郷土資料や教養・実用・娯楽の図書、雑誌も多数取り揃えていますので、是非ご利用ください。

なお、現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、発熱や強いだるさ、咳、息苦しさ、その他体調に不安がある方の来館・入館はご遠慮いただいています。また、利用に際しては各種制限を設けていますので、来館される場合は、香川高等専門学校ホームページ（「施設案内」→「図書館」）の図書館カレンダー及び図書館利用案内を確認してお越しください。